

image 1 ヒューマンライブラリーの構成

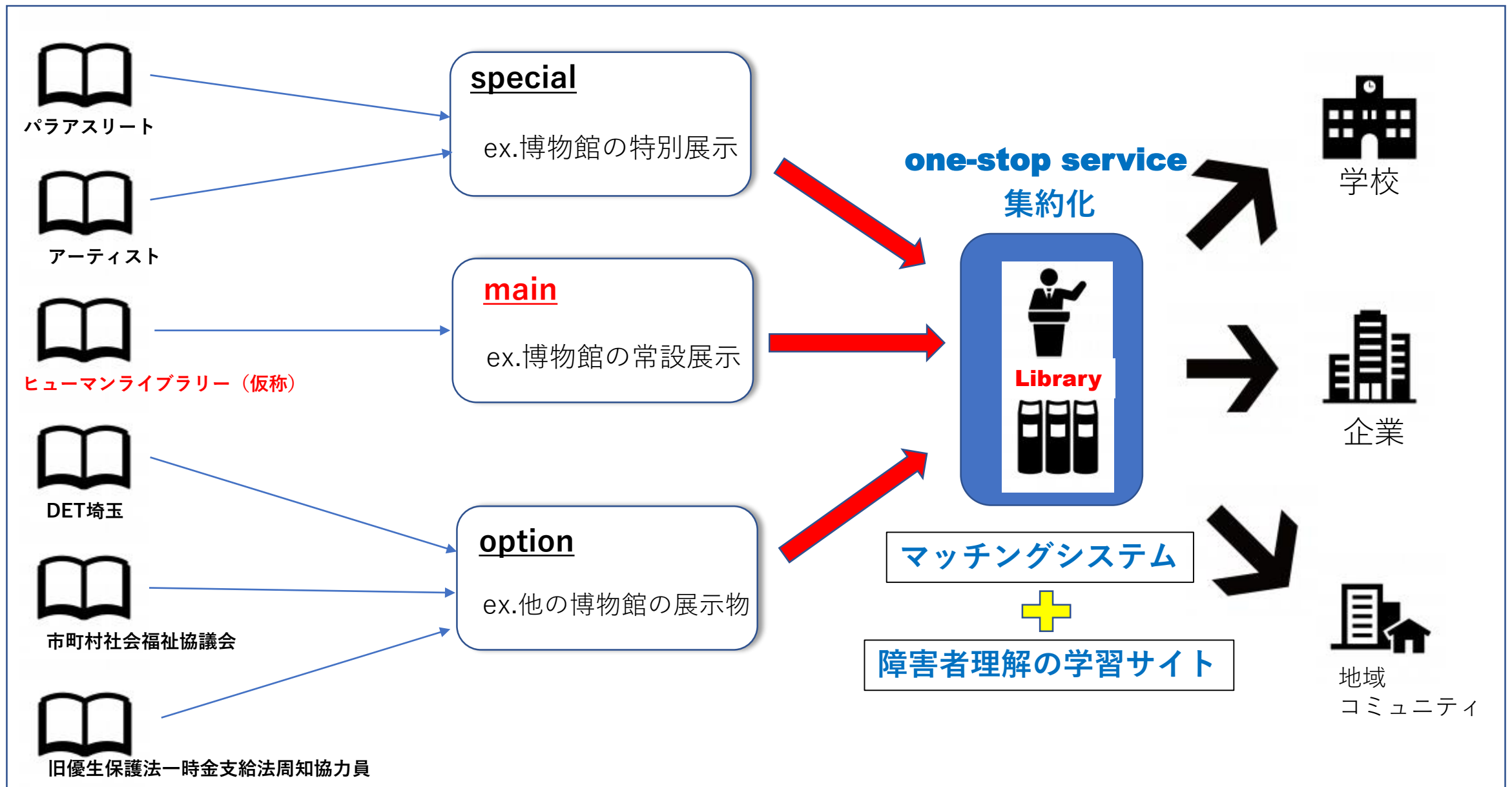
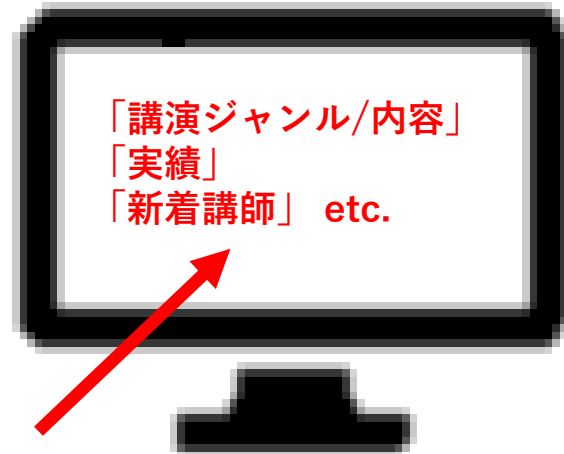


image 2 申し込み方法

- ①WEBサイトにSpeakerの情報を掲載
(随時情報を更新)
- ②UserはSpeakerにメールで連絡
- ③日程や講演内容について打ち合わせ
- ④講演実施
- ⑤Userはユーザーレコメンドの記入



※ 講師のモチベーションを高めたり、
利用者側が講師選定の参考となるような工夫



24時間いつでも見られる



Speaker (個人)

- ・プロフィール
- ・講演実績
- ・講演タイトル
- ・講演内容
- ・講演料金の目安
- ・ユーザーレコメンド
- ・連絡先 (E-mail)



Speaker (団体)

- ・プロフィール
- ・講演実績
- ・講演タイトル
- ・講演内容
- ・講演料金の目安
- ・ユーザーレコメンド
- ・連絡先 (E-mail)

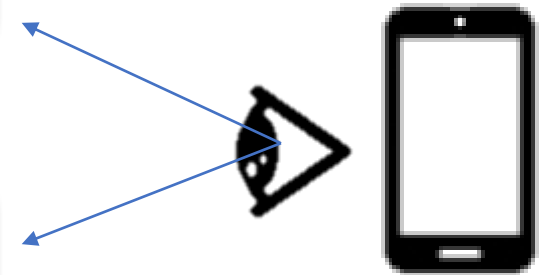
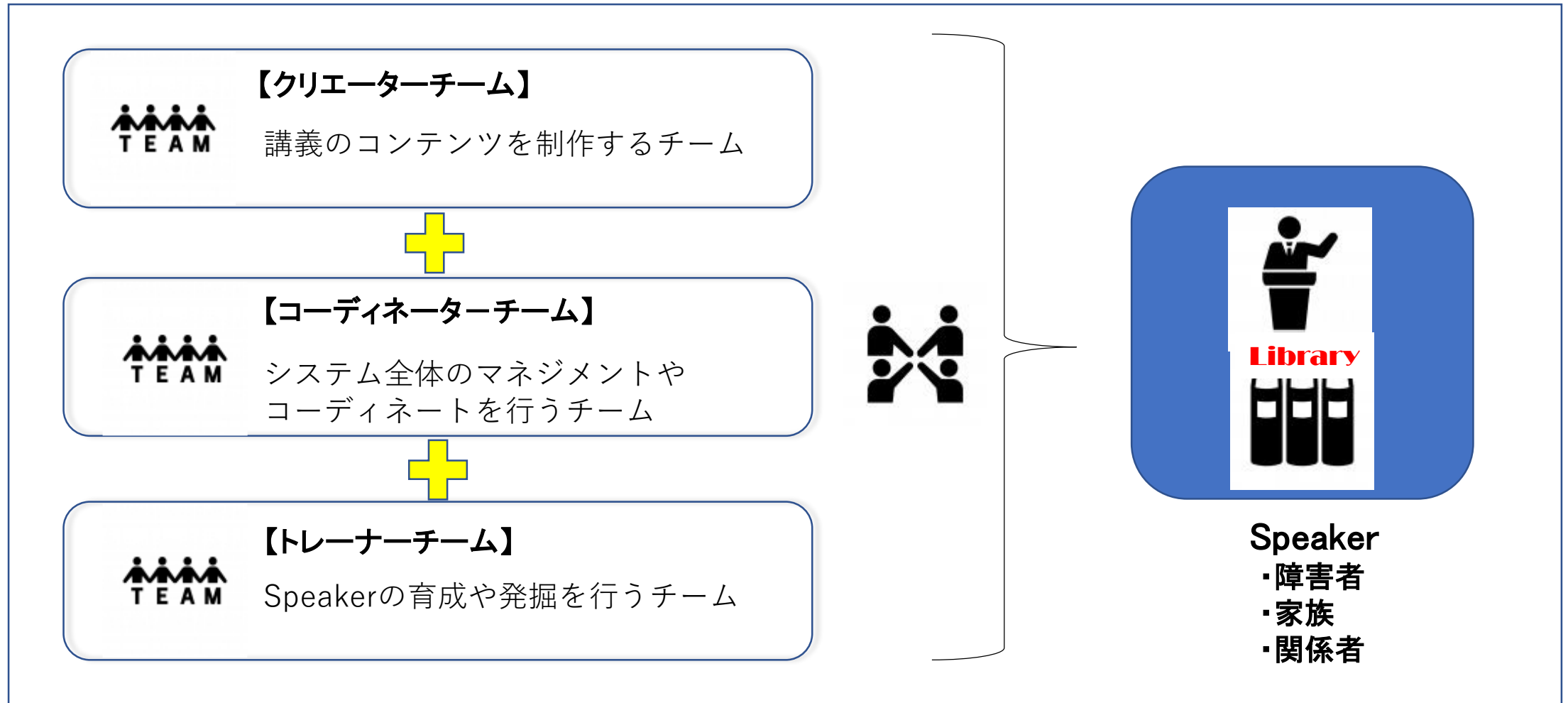
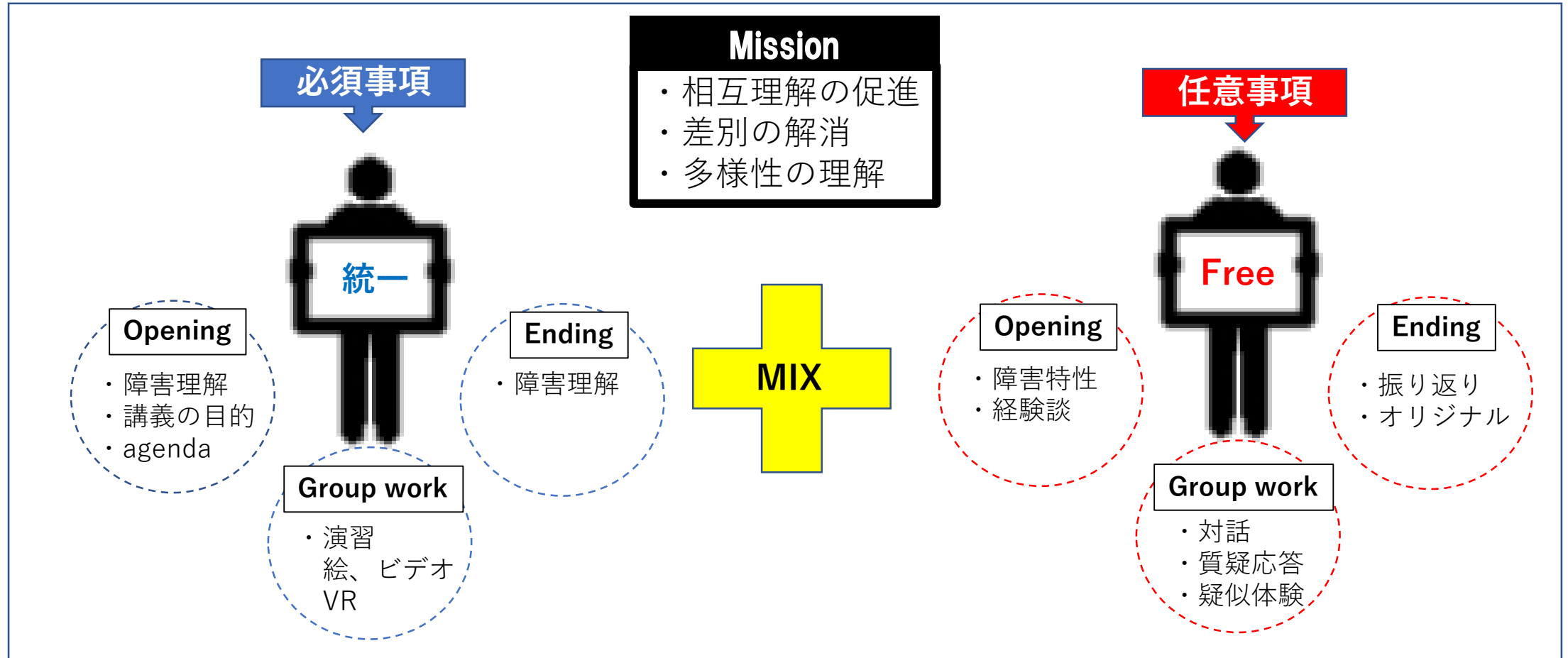


image 3 プロジェクトチームの編成



【クリエイターチーム】＝佐藤会長、埼玉県、Aチーム委員(数人)
【コーディネーターチーム】＝埼玉県、佐藤会長、Aチーム委員(数人)
【トレーナーチーム】＝佐藤会長、埼玉県、DET埼玉(協力)、県社会福祉協議会(協力)

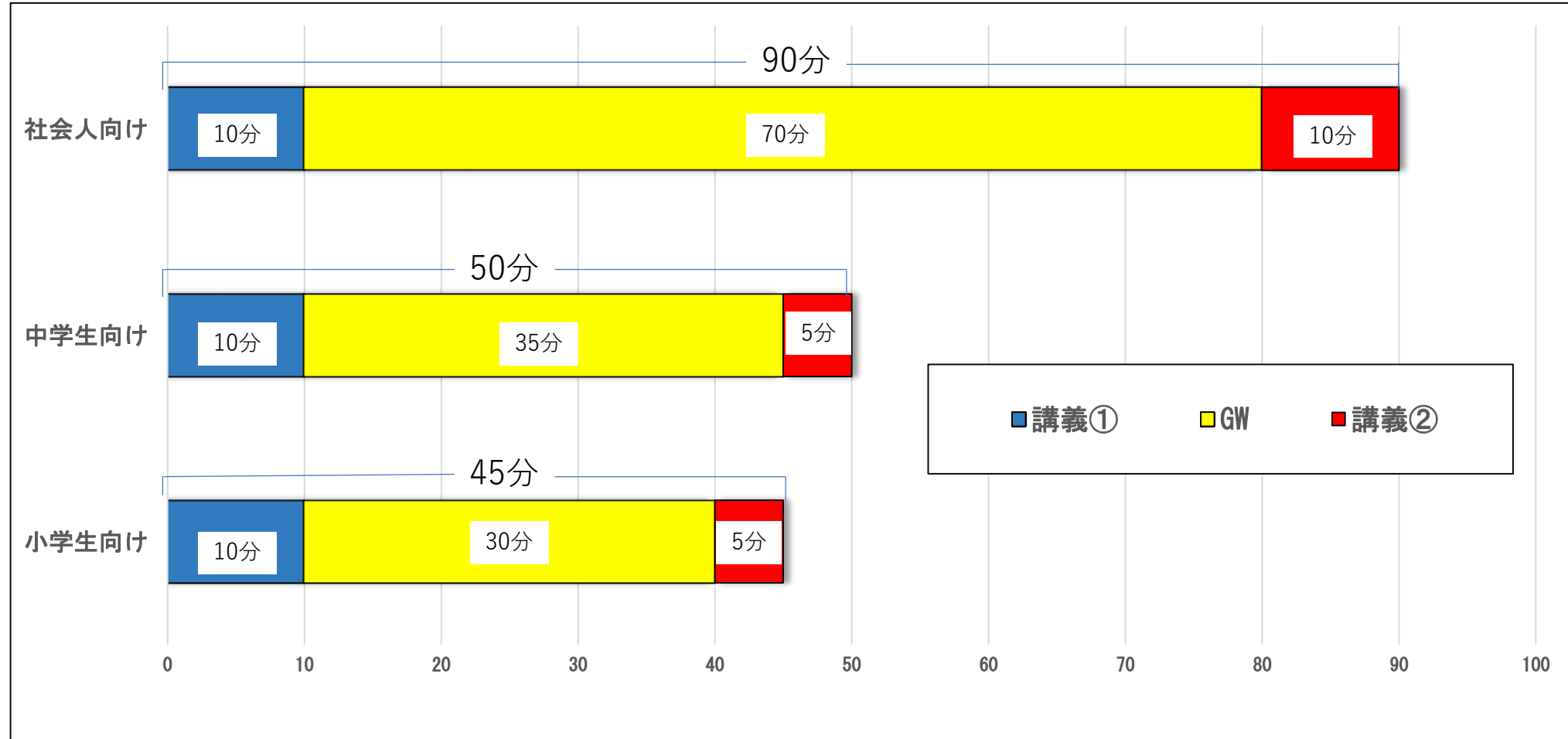
image 4 コンテンツの概要



- ・講義の中に統一的な必須事項を組み込むことにより、ヒューマンライブラリー（仮称）のブランドを創出する。
- ・トークスキルに長けていないspeakerでも一定のクオリティーを保つことが可能となる。

※必須事項についてはクリエイターチームがコンテンツを制作する。

image 5 年代・対象・時間別のコンテンツパターン(例)



【例：開催回数が1回の例】

- ・ 講義① = 障害理解、障害特性や経験談、オリジナルトーク（ネタ）
- ・ GW（グループワーク） = 統一的な演習（対話）
- ・ 講義② = 障害理解、講義の振り返り



黒字はspeaker

赤字はクリエイターチーム
がコンテンツを作成する。

※開催回数が複数回の場合はコンテンツの組み合わせによるパッケージも用意する。

image 6 本格運用までの流れ

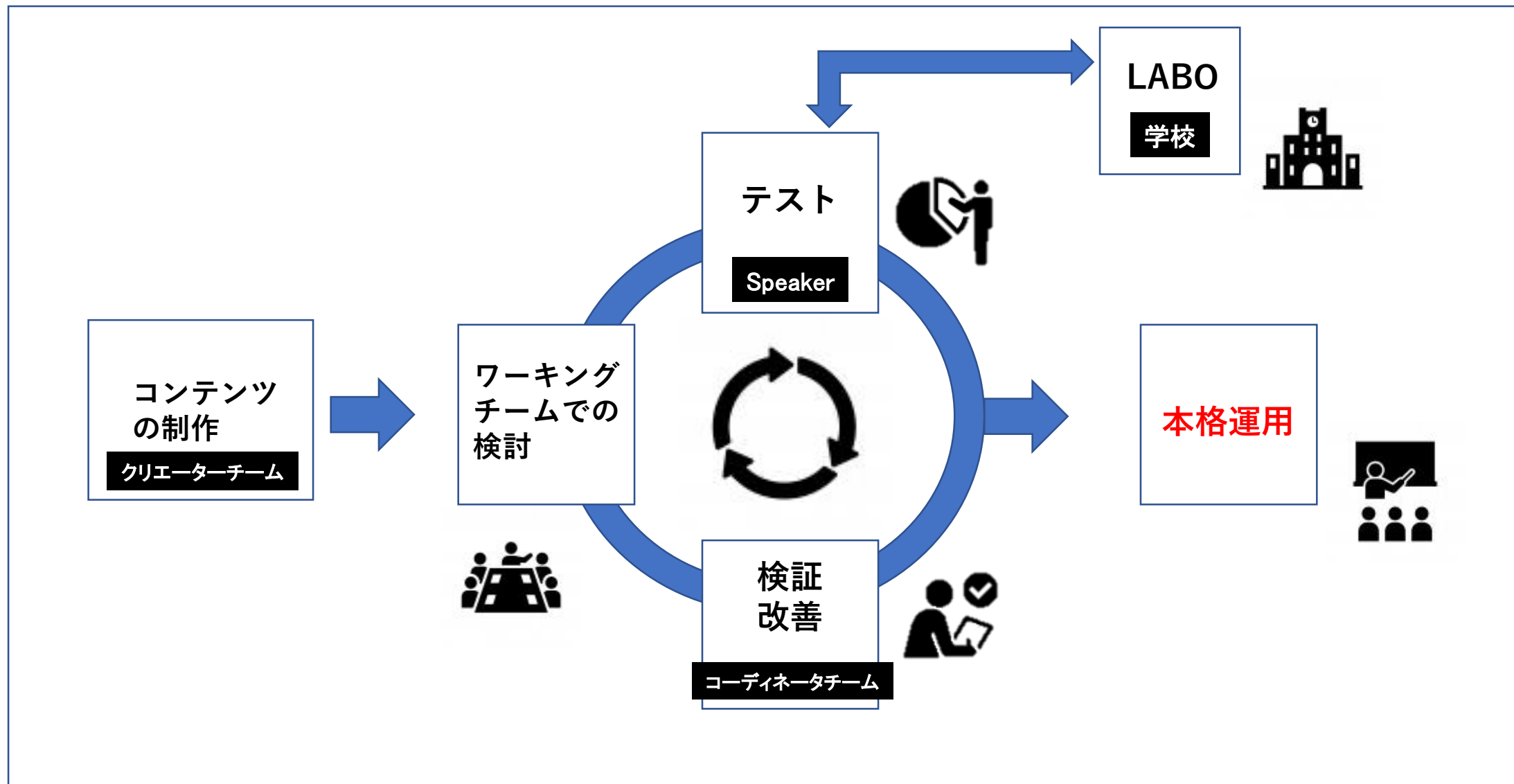


image 7 Speakerの育成



Speakerの障害特性に配慮した環境を配慮する。

- ・ 言語障害、知的障害、精神障害、発達障害のあるspeakerに疑似体験、VRの活用、アシスタント同席、時間等
- ・ 聴覚障害のあるspeakerに手話通訳者

image 8 「相互理解の強化」への連携・展開

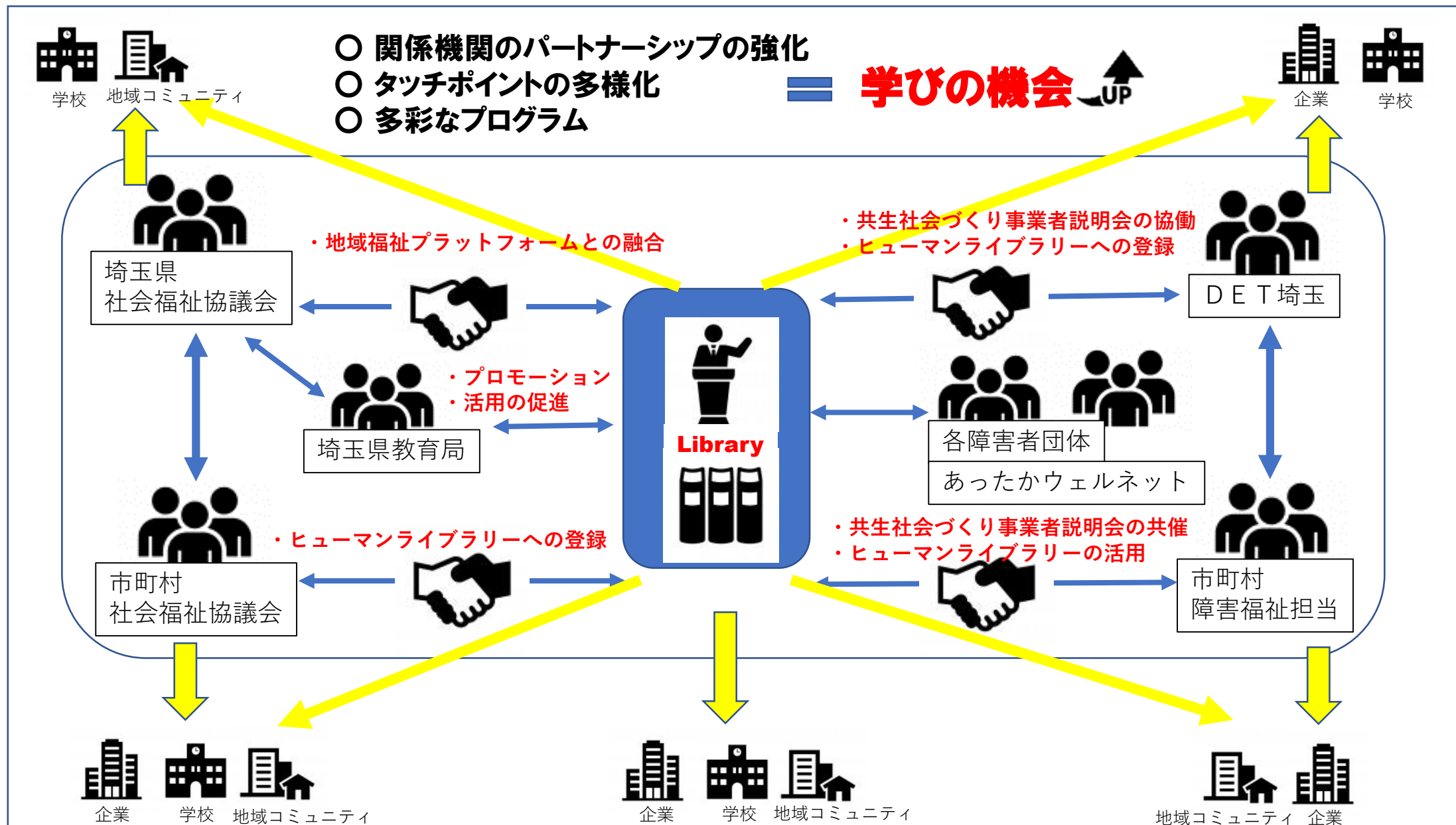
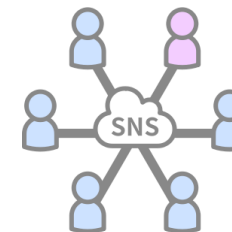


image 9 プロモーションの流れ

【Phase 1】 システムの存在をターゲットに知らせる。
Webサイト、SNS



【Phase 2】 システムの特徴を伝えて、分かってもらう。
Webサイト、SNS、教育局の会議や社会福祉協議会プラットフォームでP R

【Phase 3】 ターゲットの興味や意欲を高める。
動画によるC M
企業訪問（障害者差別解消施策）、共生社会づくり事業者説明会でP R



【Phase 4】 ターゲットに講演を受けてもらう。
講演の際にWebサイト紹介チラシを配布



【Phase 5】 ターゲットにリピーターになってもらう。
一度受講した団体（学校、企業、地域コミュニティ）に新着情報を送る。



※ Webサイトの構成を充実し、コンテンツ画面からも学べるような工夫をする
（県が作成した動画やチラシ等を中心に、世代や立場がさまざまな人に見てもらえるコンテンツを掲載する）

image 10 ヒューマンライブラリーのロードマップ

